サドカイ派　知っておきたいキリスト教のことば　(81)

サドカイ派という名前は、ダビデ・ソロモン時代の大祭司ツァドクに由来するとも、ヘブライ語ツァッディーク（正義）が元になっているとも言われますが、はっきりしていません。

サドカイ派は第二神殿時代(紀元前 515～紀元 70 年)の後期に影響力をもったユダヤ教の一派でした。当時ユダヤ教は、ファリサイ派、エッセネ派、サドカイ派が三大勢力を形成していました。その中でもサドカイ派は人数こそ少なかったのですが、大祭司を出す家系としてユダヤ教の政治的・宗教的な支配階層を形成していました。

彼らはモーセ五書（創世記・出エジプト記・レビ記・民数記・申命記）にのみ、絶対的な権威を認めます。そのため、その中に書かれていない事項については否定します。たとえば復活や天使の存在、霊魂の不滅性や終わりの日における因果応報などはモーセ五書に根拠をもっておらず、彼らは受け入れませんでした。一方ファリサイ派は預言書や口伝伝承も尊重しており、サドカイ派とたびたび衝突していきました。しかしイエス様が邪魔だという点においては、両者の利害関係は一致したようです。

強い影響力をもっていたサドカイ派ですが、聖書の中にはあまり出てきません。彼らは祭司階級・貴族階級としてエルサレム神殿にいたために、民衆の間にいたイエス様と接点があまりなかったようです。

そして 70 年のエルサレム神殿崩壊とともに、神殿祭司であったサドカイ派は消滅しました。エルサレム神殿崩壊後に書かれたとされる福音書の記者たちにとって、彼らサドカイ派はすでに過去の存在となっていたのでしょう。

次回は「サマリア人」です。お楽しみに。